



朔太郎しのび 各種イベント

詩などによる文化発信を行っている前橋文学館に、全国から多くの皆さんにお集まりいただき第34回朔太郎忌が盛大に開催されますことを大変うれしく思います。

本市は、雄大な赤城山の南ろくに広がり、清らかな水をたたえた利根川や広瀬川が市内を流れ、緑豊かで自然に恵まれた都市です。風光明媚な土地柄から多くの詩人を生み出したことで「近代詩のふるさと」ともいわれ、とりわけ萩原朔太郎は、日本近代詩史に口語自由詩を確立した世界的にも有名な詩人の1人です。

今年、萩原朔太郎の生誕120周年に当たる年です。これを記念して朔太郎がマンドリンを愛したことにちなみコンクール「前橋マンドリンフェスタ2006」を開催。さらに「前橋文学館賞」を制定し全国から新しい形の詩や映像作品を募集することといたしました。

すでに定着しています「萩原朔太郎賞」「若い芽のポエム」とも、これから継続・発展させ、市民の皆さんが誇りを持てる文化の薫り高いまちづくりを進めたいと思います。
(朔太郎忌、5月14日、前橋文学館)

ふれあい 広場

まえばし シティフラッシュ



敷島公園ばら園で、五月二十日・二十一日にばら園まつりが行われました。会場は二百種類のバラの香りに包まれ、ジャズ演奏や即売会など多彩な催しが、家族連れなど多くの人が美しい花に魅了されていました。

バラ鑑賞に公園にぎわう



朔太郎生家跡に碑

千代田町二丁目の萩原朔太郎生家跡に碑が整備され、5月14日、高木市長らが除幕を行いました。これに伴い生家前の道も名称が裁判所前通りから朔太郎通りに。日本近代詩に偉業を遂げた詩人へのぶ場所がまた1つできました。

Qのまち春の祭典

5月13日・14日の2日間、中心商店街で「Qのまち春のフェスティバル」が開かれました。キャラクターショーやフリーマーケットなど盛りだくさんの催し。「花々セール」も中央通りで行われ、花鉢や切り花を求める人々にぎわいました。



本庁管内

文化祭を通じ 交流深める

五月二十日・二十一日の二日間、住吉町二丁目公民館で、文化祭が行われました。昭和五十八年から始まり、近年は芸能祭と交互に行っています。会場は、絵画や書道、工作など町内の皆さんの趣味を紹介する力作が展示。併せて茶席も開かれ、大人から子どもまで多くの人でにぎわいました。



まちの ニュース

世代を超えて 軽スポーツ



元総社地区

元総社町第二自治会のグラウンドゴルフ大会が、五月二十一日、元総社町二丁目明神東公園で開かれました。今年で五回目の三世交代行事で、六十人の選手と役員など百人が参加。小学生、お年寄り、一般の人が一緒にチームを組み、お互い楽しそうに話しながら、心地よい汗を流しました。

「第十五回全国ボランティアフェスティバルぐんま」の大会は十一月三日・四日の二日間、本市を主会場に県内で

子どもの絵の素晴らしさを



ボランティアフェスのポスター原画に
寺沢 徹さん(50)
小枝子さん(10)
山王町一丁目

開催。関係者らが交流を図る。「わたしは小学校に入ったころ、鉛筆で描いた家族や友だちの似顔絵をお父さんがパソコンを使って、一枚の絵に仕上げてくれました。賞に選ばれたって聞いてうれしかったです。表彰式では、とても緊張してしまっただけで、もらった賞金で焼肉を食べに行ったり、今度、東京へ好きなミュージカルを見に連れて行ってもらうことになったり、本当に良かったと思っています。「デザインの仕事をしていて、近所の子どもたちに絵の

教室も開いています。幼児や児童が描く絵の素晴らしさを日ごろから実感しているので、ポスターに使われ、多くの人たちの目に触れる機会になったことをうれしく思っています。これを機会に、家族や友だちを大切にして、困った人たちがいれば自然と手を差し伸べられるよう、自分の息子や娘には教えていきたいですね(徹さん)

笑顔が寄り添うように並んだポスター。その温かさが見る人の心に伝わり、ボランティアの輪が大きく広がるきっかけになるだろう。